

平成20年度キャリア教育実践協議会資料

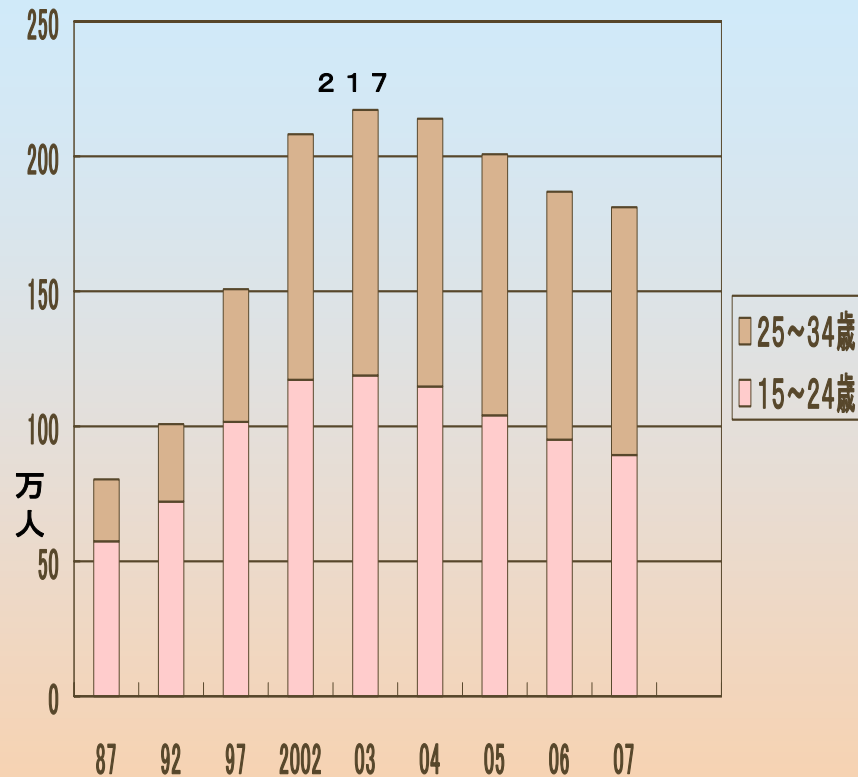
キャリア教育の推進について

山口県教育委員会

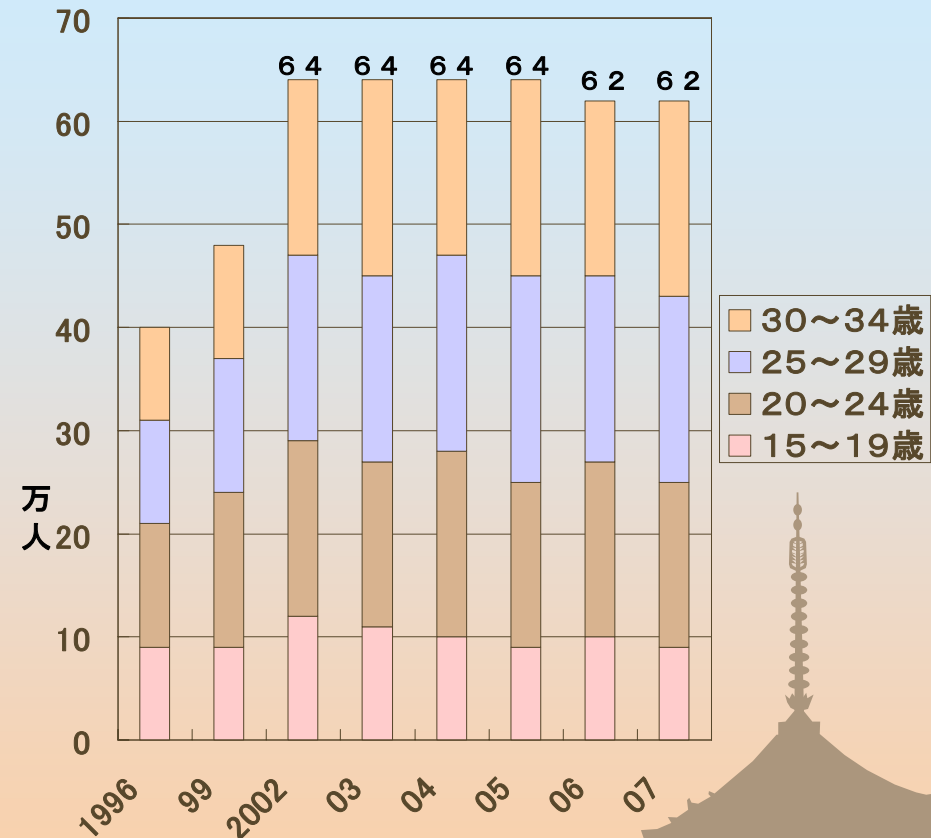


フリーター・ニートの状況

フリーター数の推移



ニート数の推移

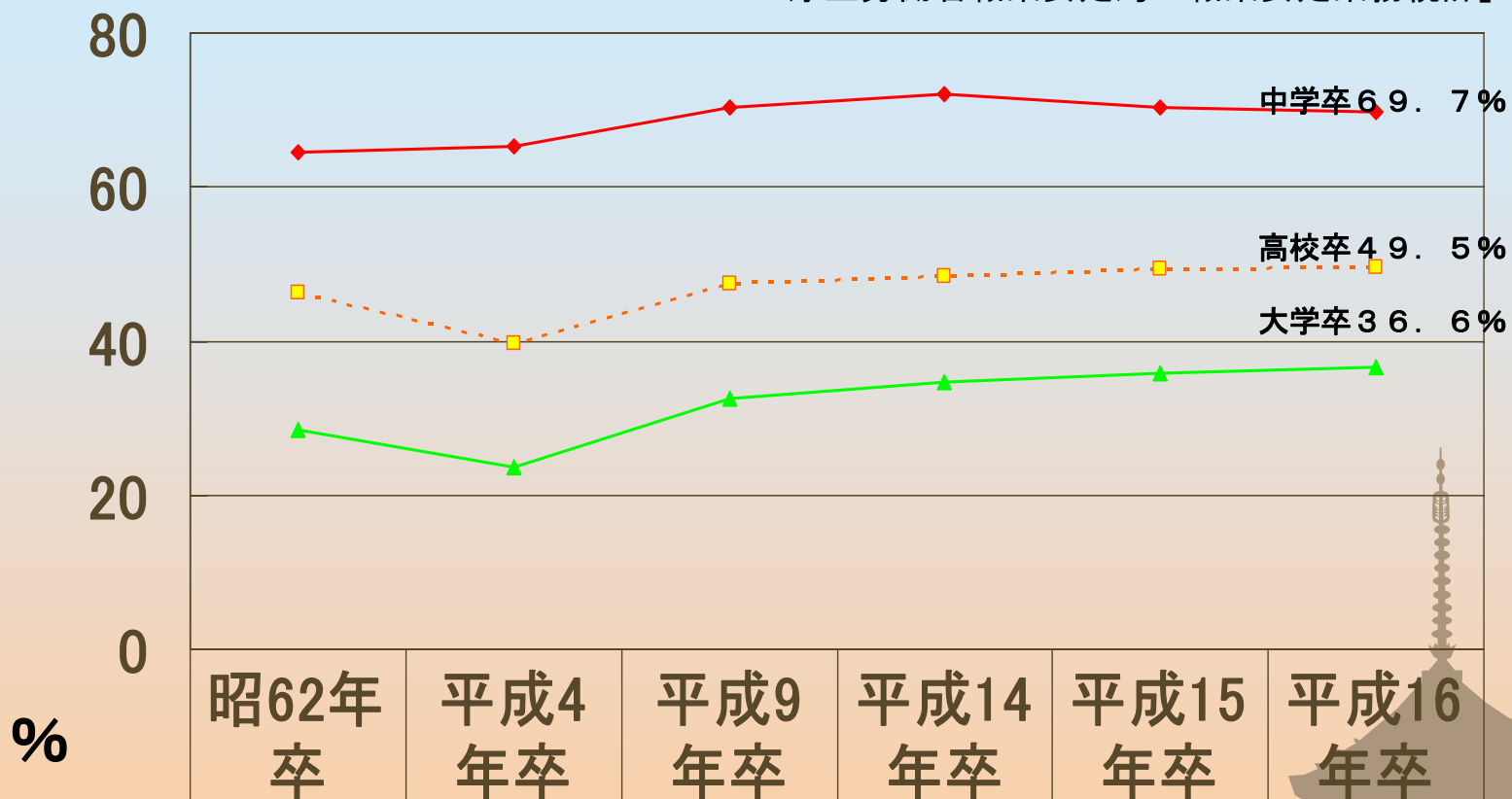


- 「フリーター」の数は、217万人（2003）をピークに、減少しているが、25歳以上の「年長フリーター」については改善に遅れ。
- 「ニート」の数は、2002年に64万人に増加して以降、ほぼ同水準で推移していたが、2006年、2007年は62万人。

総務省統計局「労働力調査」

就職3年以内の離職率

厚生労働省職業安定局「職業安定業務統計」



	昭62年卒	平成4年卒	平成9年卒	平成14年卒	平成15年卒	平成16年卒
◆ 中学卒	64.5	65.2	70.3	72.1	70.3	69.7
□ 高校卒	46.2	39.7	47.5	48.5	49.3	49.5
▲ 大学卒	28.4	23.7	32.5	34.7	35.8	36.6

キャリア教育に関する国の動向

○ 教育基本法第2条第2号 (教育の目標)

個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、
自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を
重視し、勤労を重んずる態度を養うこと



○ 学校教育法第21条（抜粋） （義務教育の目標）

- 1 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 4 家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと。
- 10 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する態度を養うこと。



ますます求められるキャリア教育

◎次の学習指導要領ではどうなるのか・・・

■ 社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項

(キャリア教育)

- 2. で示したとおり、「生きる力」という考え方は、社会において子どもたちに必要となる力をまず明確にし、そこから教育の在り方を改善するという視点を重視している。近年の産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化を背景として、就職・進学を問わず子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。このような変化の中で、将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要がある。
- 他方、4. (1)で示したとおり、特に、非正規雇用者が増加するといった雇用環境の変化や「大学全入時代」が到来する中、子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で意義が見出せずに、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった状況が見られる。さらに、勤労観・職業観の希薄化、フリーター志向の広まり、いわゆるニートと呼ばれる若者の存在が社会問題化している。

ますます求められるキャリア教育

- これらを踏まえ、現在においても、
 - ・ 中・高等学校における進路指導の改善、
 - ・ 職場体験活動、就業体験活動等の職業や進路に関する体験活動の推進などの取組を行っているところであるが、今後さらに、子どもたちの発達の段階に応じて、学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む必要がある。

すなわち、8. で示すとおり、生活や社会、職業や仕事との関連を重視して、特別活動や総合的な学習の時間をはじめとした各教科等の特質に応じた学習が行われる必要がある。特に、学ぶことや働くこと、生きることを実感させ将来について考えさせる体験活動は重要であり、それが子どもたちが自らの将来について、夢やあこがれをもつことにつながる。具体的には、例えば、

- ・ 特別活動における望ましい勤労観・職業観の育成の重視、
- ・ 総合的な学習の時間、社会科、特別活動における小学校での職場見学、中学校での職場体験活動、高等学校での就業体験活動等を通じた体系的な指導の推進、
などを図る必要がある。

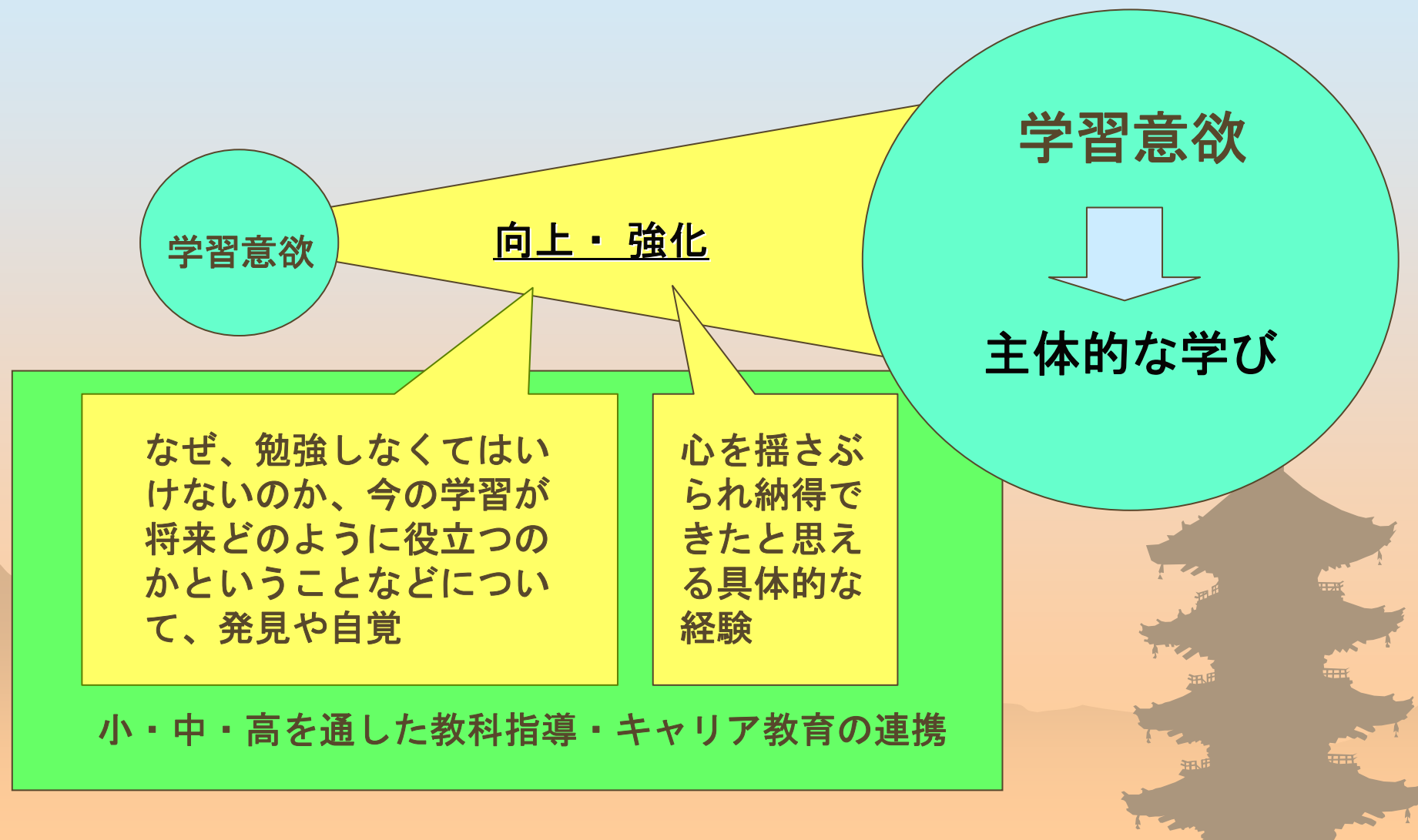


ますます求められるキャリア教育

■ 学習意欲の向上や学習習慣の確立のための四つの観点(抜粋)

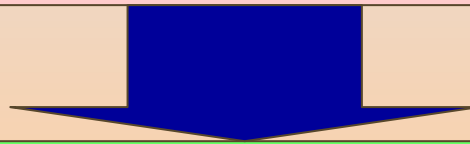
- 第一は、家庭学習も含めた学習習慣の確立には、特に、小学校低・中学年の時期が重要である。
- 第二は、(中略)つまづきやすい内容をはじめとした基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る必要がある。分かる喜びは学習意欲につながる。
- 第三は、観察・実験やレポートの作成、論述など体験的な学習、知識・技能を活用する学習や勤労観・職業観を育てるためのキャリア教育などを通じ、子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもったり、学ぶ意義を認識したりすることが必要である。
- 第四は、全国学力・学習状況調査等を通じた教育成果の様々な評価により、設置者等において、学習意欲や学習習慣に大きな課題を抱えている学校を把握し、これらの学校に対する支援に努める必要がある。

学力向上とキャリア教育



キャリア教育の必要性

- 産業構造の変化や雇用の多様化を背景とした進路をめぐる環境の変化
- 若者の職業人としての基本的資質や能力の低下
- 社会的に自立していない若者の増加
- 高学歴社会におけるモラトリウム傾向の強まり



生徒一人ひとりが自らの生き方を考え、夢を育み、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を育成する幅広い「キャリア教育」を推進

キャリア教育とは？

- 小学校の早い段階から発達段階に応じて、学校教育活動全体を通じて、児童生徒一人ひとりの自己にふさわしい生き方を実現しようとする意欲・態度や能力を育む教育



夢

志

目標

本県におけるキャリア教育

◇ キャリア教育がめざすもの

● 自己の在り方生き方の追求

- 社会的自立の支援
- 勤労観、職業観の育成
- 知・徳・体の育成

◇ 成果と課題

成 果

- ・ キャリア教育が学校・家庭・地域・産業界等に浸透してきた。
- ・ 学校におけるキャリア教育推進上の課題が明確になってきた。

課題

キャリア教育の意義や重要性等は全体的に浸透しているが、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援する取組に至っていない。

全校体制で計画的系統的に推進すること

体験活動に偏らず教育活動全体で推進すること

小・中・高の積み上げによる取組を推進すること

学校・家庭・地域・産業界等の連携を推進すること

◇ 本年度の取組（深化・拡充）

学校におけるキャリア教育

教育活動全体を通じて

教育活動全体を通じて、児童生徒一人ひとりの意欲を育み、自己実現や社会生活を送るための力を身に付けさせる。

発達段階に応じて・・

発達段階に応じた体験活動や、多様な関係者との連携協力によるキャリア教育の実施を図る。

連携協力して・・・・

学校と家庭・地域・産業界等との連携協力体制を強化する。



山口県キャリア教育推進事業



小

大人に学ぶ小学生
サポートプラン

中

＜国事業＞
キャリア・スタート・
ウィーク

中

中学生向けキャリア
ガイドブック「夢サポート」

全校種

山口県キャリア教育
実践協議会

高

インターンシップ推進

高

キャリア・
インストラクター派遣

高

＜国事業＞
高等学校におけるキャリア教育の在り方に関する調査研究



児童生徒一人ひとりの夢の実現

キャリア教育推進事業(体験活動)



大人に学ぶ小学生サポートプラン

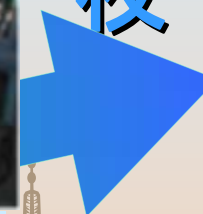
小学校

中学校



インターンシップ

高等学校



キャリア・スタート・ウィーク



キャリア教育推進事業（その他の取組）

- キャリア教育実践協議会
（県下4か所開催）
- キャリア・インストラクター派遣
- キャリアガイドブック
「夢サポート」
- 高等学校におけるキャリア教育
の在り方に関する調査研究



キャリア教育の進め方

- 小学校の早い段階から発達段階に応じて
- 学校教育活動全体を通じて
- 教員が十分理解して
- 体験学習を通して
- 連携・協力して



一人ひとりの夢の実現

人生へのモチベーション

夢づくり

人とのかかわり

働くことの意味



キャリア発達にかかわる諸能力



人間関係形成能力

- ・自他の理解能力
- ・コミュニケーション能力

情報活用能力

- ・情報収集・探索能力
- ・職業理解能力

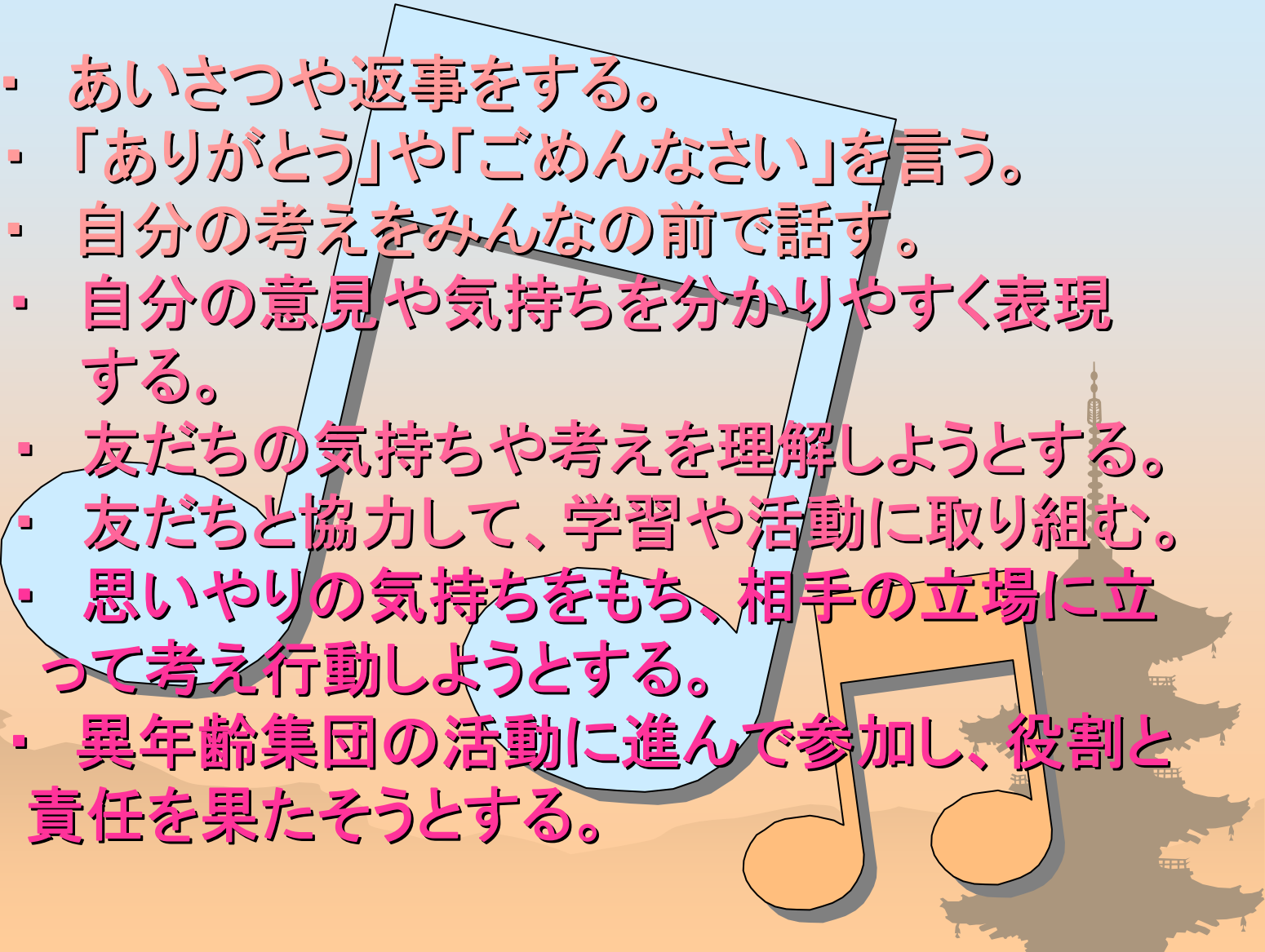
将来設計能力

- ・役割把握・認識能力
- ・計画実行能力

意思決定能力

- ・選択能力
- ・課題解決能力

(例) コミュニケーション能力(小学校)

- 
- 低学年
- ・ あいさつや返事をする。
 - ・ 「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。
 - ・ 自分の考えをみんなの前で話す。
- 中学年
- ・ 自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。
 - ・ 友だちの気持ちや考えを理解しようとする。
 - ・ 友だちと協力して、学習や活動に取り組む。
- 高学年
- ・ 思いやりの気持ちをもち、相手の立場に立って考え行動しようとする。
 - ・ 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。

(例) コミュニケーション能力(中学校)

- ・ 他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。
- ・ 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。
- ・ リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。
- ・ 新しい人間関係や環境に適応する。

(例)

コミュニケーション能力(高等学校)

- すべての教科等において、話し合いや討論等を通して、自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。
- 異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る。
- 生徒会活動や部活動等を通して、リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。
- インターンシップや福祉ボランティア活動等を通して、新しい環境や人間関係を生かす。

教育活動全体を通した取組

- ❁ 道徳
- ❁ 各教科
- ❁ 特別活動
- ❁ 総合的な学習の時間
- ❁ その他



各教科

○小学校 生活科「大きくなった自分」
社会科「産業と人々の生活」

○中学校 国語科「他者の考えの尊重、自己表現」
技術・家庭科
「私たちの家族と地域、自己の
成長と家族」

○高等学校
数学科「実社会における数学の活用」
外国語科「自分の未来を英語で表現しよう」



道 徳

○小学校 「公德心・決まりを守る」
「勤勉努力・ねばり強さ」
「誠実明朗・自分の特徴」
「働くことの意義」

○中学校 「理想の実現」
「個性や立場の尊重」
「生きる喜び」
「年齢に応じた社会的責任」



特別活動

- 小学校 「ともだちをつくろう」
「係と当番活動を見直そう」
「なかよし班(異学年)活動」
- 中学校 「遠足、修学旅行(班行動・コース選択)」
「生徒会活動、係・班活動」
「15才の決意(わたしのライフプラン)」
- 高等学校
「キャリアガイダンス」
「進路講演会」
「体育祭、文化祭」
「修学旅行(大学・企業訪問)」

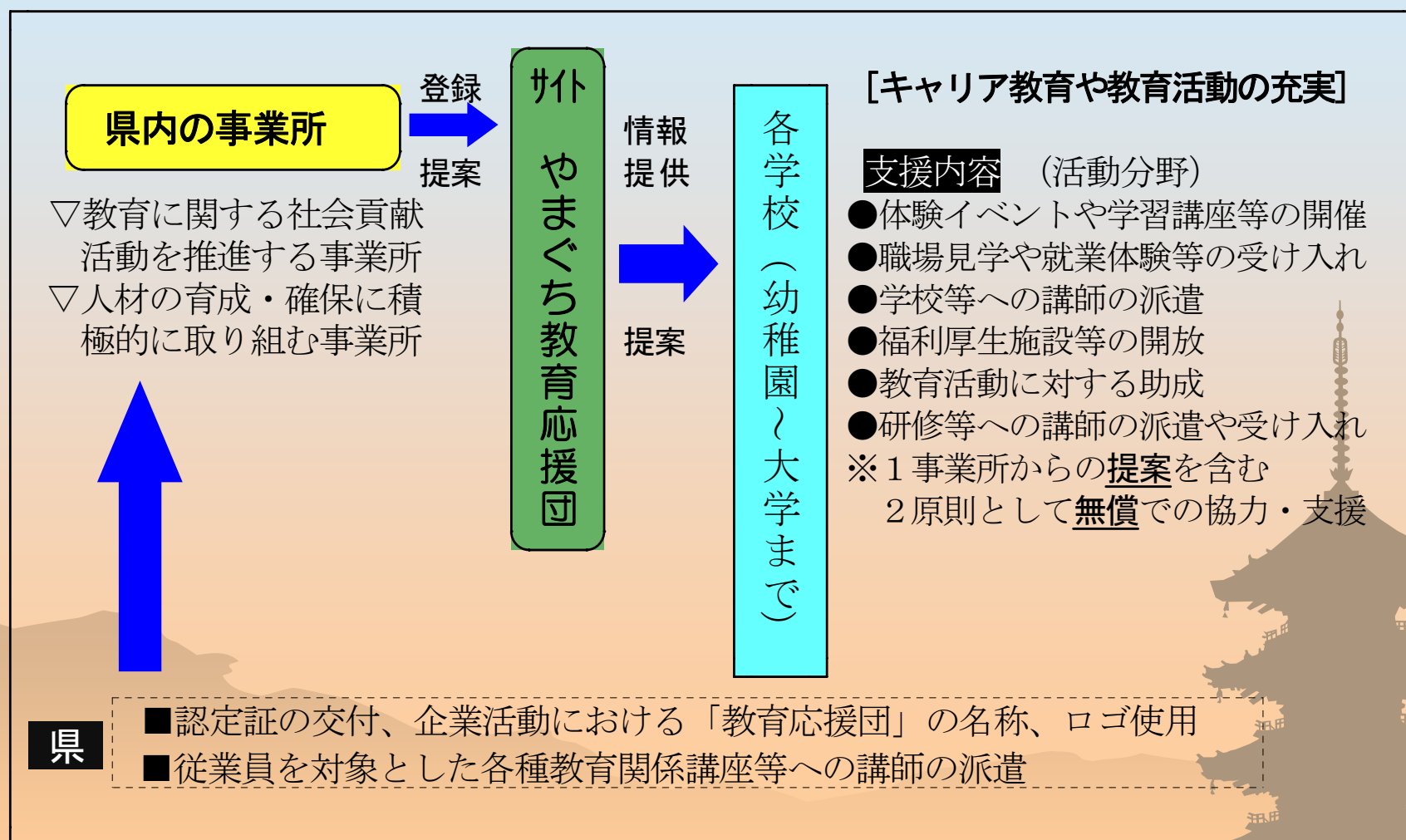


学校における推進の手順例

- 1 キャリア教育の視点を踏まえ、育てたい児童生徒像を明確にする。
- 2 学校教育目標、教育方針等にキャリア教育を位置付ける。
- 3 組織として、キャリア教育推進委員会(仮称)を設置する。
- 4 教職員のキャリア教育についての共通理解を図る。
- 5 キャリア教育の視点で教育課程を見直し、改善する。
- 6 キャリア教育を実践する。
- 7 家庭、地域に対し、キャリア教育に関する啓発を図る。
- 8 キャリア教育の評価を行い、その改善を図る。

「やまぐち教育応援団」の創設

地域・社会の参加による教育の充実



キャリア教育のキーワード



「連携」

と

「積み上げ」

夢づくり

人とのかかわり

働くことの意味